



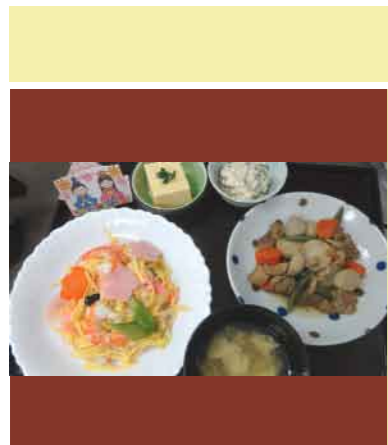
ケアホーム・里の手では2月3日に節分会を開催しました。スタッフが鬼の衣装を身にまとして登場すると、待っていましたと、豆にみだて丸めた新聞紙を投げつけていきました。利用者の皆さんは良い運動になったと大変喜ばれ、楽しいひと時を過ごされました。今回は福の神も登場し花を添えました。



3月19日・20日に、ぼたもち作りをしました。あんこでもち米を包んだものと、もち米であんこを包み、きな粉をかけた物をみんなで作りしました。上手に包み丸めたぼたもちを美味しい美味しいと喜ばれ食されました。



栄養課



3月2日・3日はひな祭りメニューを提供しました。ちらし寿司は人参とハムを梅の花型にくり抜き、菜の花の酢みそがけでは卵黄を裏ごしして菜の花に見立てて春を感じて頂けるよう飾りつけました。苺パバロアは、旬の苺100%で仕上げたゼリーです。お味はいかがだったでしょうか。



ヘルパーステーション里見 り

利用者のニーズに合わせて身体介護、生活介護の中から調整してサービスを決めさせていただきます。詳しくはご相談ください。



心のサプリメント『サシスセソ』

《ソ》ソは想、想像、予想。構想、思想。想は「心」と内部まで見る意の「相」とを合わせて、心の中で「おもいみる」意味をあらわすとある。自然や事物や人物に対して想いみて、「すがた」「かたち」を想い描き想像する。過去を振り返り現在から未来を予め想いみて予想する。人は想いみることによって夢を描き、夢を現実に結ぶため結果を予測し未来を想像する。事物や事象や事業の内容を図式的、立体的に、または経時的に考え組み立て構想する。構想を叶えるため、計画や対策を立て戦術や戦略を練り実行する。自然および社会環境や宗教的感化、教育や文化などさまざまな影響の中で人は育ち考え想いを抱く。社会的な事象や状況を想いみて思いを巡らし一定の見解を得て思想を形成する。「人間は考える葦である」人間は自然の中で最も弱い一茎の葦に過ぎない。だが、人間の尊厳のすべては考えることの中にある。これは思考する人間の尊さを称えたパスカルの有名な言葉です。「おもいみる」ことは心のサプリメントです。何処にいても「おもいみる」思考は自由です。太古の時代から遠い未来まで、地殻の中から宇宙の天空の果てまで、思考は何処にでも出没し何処までも飛んでいけます。何事も予断を以て想定せず、深く考え想いみて行動し続けられれば、きっとどんな道も開けていくでしょう。